

法人会 全国青年の集い 岐阜大会を終えて

青年部会長 長濱 司

2018年11月8日(木)～9日(金)に、岐阜県で『第32回 法人会 全国青年の集い 岐阜大会』が行われ、全国から青年部員が約1800名集まりました。阿波麻植法人会青年部からは、私と井内副部会長が参加しました。

法人会青年部は活動の一環として、国や地域社会に貢献するという大きな志のもと、次世代を担っていく子供たちに税の役割や大切さを伝えるべく、租税教育活動に取り組んでいます。今後は、私たち自身が税の使い道についてより深く学び、子供たちと共に日本の将来を考えることを通じて、租税活動を進化させていく必要があるという方針のもと、2日間、全国の仲間たちと租税教室の在り方について意見を交換してきました。

今年の岐阜大会では“未来を切り開く先駆けとなれ～「天下布武」発祥の地 岐阜から～”をスローガンに開催され、税のオピニオンリーダーたる法人会青年部会員が各種プログラムに参加することで、「公平に集め、使われる」税について理解を深めるとともに、全国の同志と交流し、知見を広げ、織田信長のような発想力と行動力を持つことの大切さについての気付きを得ることを目的とされていました。

まず1日目は、今大会のメインの一つでもある租税教育プレゼンテーションが行われました。全国から選ばれた局連の代表が、自分たちの租税教育活動を発表します。今年は12法人会が発表し、最優秀賞は金沢局連の金沢法人会が選ばれました。テーマは「税の使いみち総選挙 2018～繋がる租税活動」で、内容は「租税教室で宿題として持ち帰った『税の使いみちシート』を家庭で親と完成させ、1次選考を通過した小学校10校から選出された代表者1名がプレゼンを実施。来場者全員が投票を行い、グランプリを決定。今までの一方通行型の租税教室ではなく、多くの大人たちにも繋がる租税教室を一貫したテーマとして開催。授業で税の使いみちについて皆で考える時間を設け、家庭で親に自分たちの考えを伝え、家族と一緒に考えることで多くの大人たちとも繋がる事業となった。」とあります。

イベント型の租税活動を行っている単位会をよくあるのですが、それらは参加してくれた一部の小学生に対しての租税教育であるのに対し、金沢法人会はずべての小学6年生が対象であり、全員参加のイベント型租税教室という新しさがあった。また、租税教室を通じて法人会と子供が繋がり、その時に出る宿題を通じて子供とその家族が繋がり、結果として法人会と家庭が繋がるという面白い取り組みでした。

2日目は部会長サミット(円卓会議)が行われました。『税の使途に関する検討会(財政健全化のための健康経営プロジェクト)～日本の未来を担う子供たちのために～』というテーマでした。このプロジェクトの目的は、国の財政健全化です。プロジェクトの背景としては「税＝誰か(日本の未来を担う子供たち)を大切に思う気持ち。全法連青連協として、税金の使い道にも積極的に関与したい。日本の財政や社会保障制度が抱える課題解決が新たなミッション」とあります。22年後の仮想新聞をもとに、財政健全化のための健康経営の企業メリットや具体的な行動(アクションプラン)などについて、各単位会から集まった青年部会長が話し合いました。

その後、女優の紺野美沙子さんの記念講演がありました。夫の両親が岐阜県郡上郡出身で、岐阜県図書館名誉館長を務められるなど、岐阜県に所縁があるそうです。女優業の他に国連開発計画（UNDP）親善大使を務めるなど、国際協力の分野でもご活躍されており、その話が非常に興味深かったです。

記念講演に引き続いて大会式典と大懇親会が行われ、岐阜の名物やお酒を堪能しながら、全国から集まった青年部会のメンバー同士の情報交換・交流を深めました。

今回の全国青年の集いを通じて思ったことは、人員の確保が難しいと言われている中で、会社として社員の健康にも気を付け、長く働いてもらえる環境を作る事が大切だと思いました。